

中目標(Ⅰ)2		継続的な点検・検証を踏まえた景気統計の作成手法の改善								
測定指標4		景気統計の精度向上に向けた調査研究の進捗及び具体的改善の状況							測定指標の選定理由	景気統計については、精度の高い統計の提供に向けた施策の進捗状況を直接測定することが困難なため、精度向上に向けた研究の進捗や具体的改善の状況を把握することにより、間接的に測定することが適切であると考えられる。
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度			
目標(目標年度)	景気統計の精度向上に向けた研究の進捗、具体的改善(令和6年度)	施策の進捗状況(目標)	景気統計の精度向上に向けた研究の進捗、具体的改善	景気統計の精度向上に向けた研究の進捗、具体的改善	景気統計の精度向上に向けた研究の進捗、具体的改善	景気統計の精度向上に向けた研究の進捗、具体的改善	景気統計の精度向上に向けた研究の進捗、具体的改善	目標(水準・年度)の設定の根拠	数値化が困難なため、定性的指標として設定している。	
基準(基準年度)	景気統計の精度向上に向けた研究の進捗、具体的改善(令和元年度)	施策の進捗状況(実績)	景気統計の精度向上に向けた研究の進捗、具体的改善	景気統計の精度向上に向けた研究の進捗、具体的改善				測定指標の実績の把握方法	景気動向指数研究会等の実績をふまえて記載	
中目標(Ⅱ)3		職員の政策企画立案能力及び調査分析能力の向上								
中目標(Ⅰ)3		受講者の研修内容の習得／受講者のニーズを踏まえた研修内容の充実								
測定指標5【主要な測定指標】		研修に対する受講者アンケートの満足度							測定指標の選定理由	研修に対する受講者アンケートで「満足」「やや満足」との回答の合計を「満足度」とし、各研修における受講者数に対する「満足度」の割合が、目標値以上を得られれば、当該研修目標は達成されたと判断できるため。
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度			
目標値(目標年度)	89.0以上(令和6年度)	年度ごとの目標値	88.0	88.0	88.5	88.5	89.0	目標(値・年度)の設定の根拠	平成28年度から令和元年度までの満足度の平均値をもとに目標値に設定。	
基準値(基準年度)	88.0(平成28年度～令和元年度平均)	年度ごとの実績値	87.3	91.8				測定指標の実績値の把握方法	研修受講者アンケートの満足度調査項目集計結果を記載。	
測定指標6		分析技能の習得・向上を図る研修での習熟度							測定指標の選定理由	分析技能の習得・向上を図る研修(Excel技能研修)において、研修終了時にレベルチェックを実施し研修での習熟度を測り、一定のレベルアップが見られれば当該研修の目標は達成されたと判断できるため。
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度			
目標値(目標年度)	8.3点(令和6年度)	年度ごとの目標値	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	目標(値・年度)の設定の根拠	平成28年度から令和元年度までの習熟度の平均値をもとに目標値に設定。	
基準値(基準年度)	8.3点/10点満点(平成28年度～令和元年度平均)	年度ごとの実績値	-	9.4				測定指標の実績値の把握方法	当該研修受講者を対象に実施した習熟度テスト(10点満点)の平均値を記載	

施策に関連する主な内閣府事業 (開始年度)	関連する中目標・ 令和4年度行政事業 レビュー事業番号	予算額 (執行額) ※単位:百万円					事業概要
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
1 経済社会活動の総合的研究に必要な経費 (平成12年度)	中目標(Ⅱ)1、(Ⅱ)2、(Ⅰ)1、(Ⅰ)2 0130	497 (386)	482 (307)	458			現下の経済情勢に対し、内部部局との連携を図りつつ、計量モデル等の分析ツールの開発、経済理論等の政策分析、GDP統計の改善に関する研究、景気指標の作成等を行う。
2 経済研究所運営に必要な経費 (平成12年度)	中目標(Ⅱ)3、(Ⅰ)3 0132	9 (2)	9 (5)	9			内閣府及び他省庁職員を対象に、職務上必要とされる知識・技能の習得を目的として、研修所及び人事課・研究所にて研修を企画・実施する。
	施策の予算額 (執行額)	506 (388)	491 (312)	467			